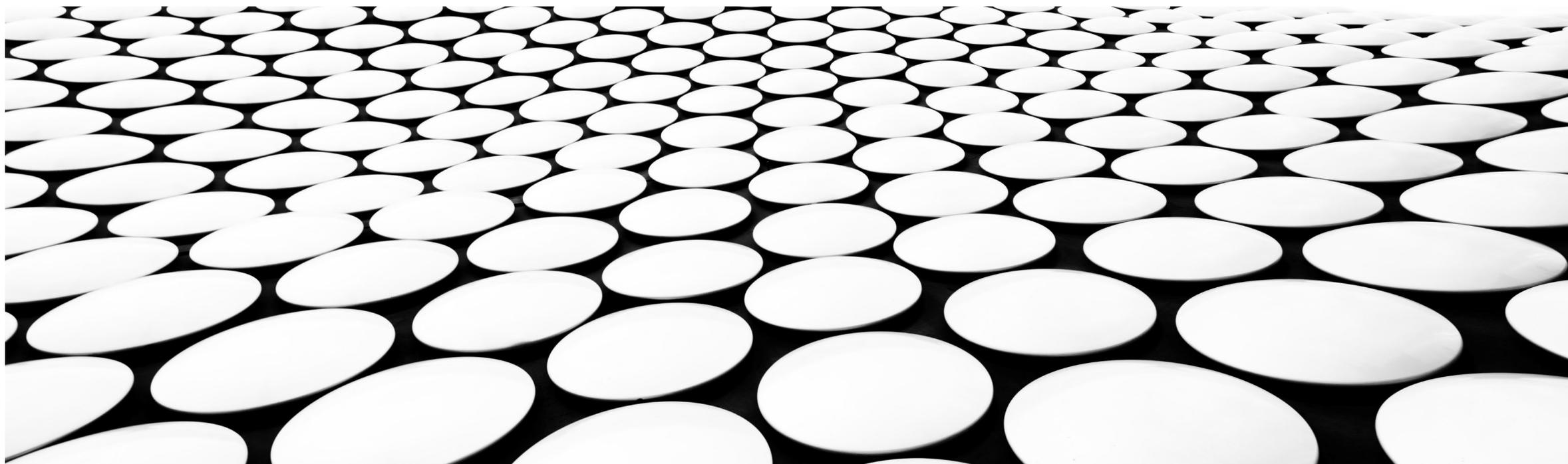

～「きょうだい」の経験と進路～ 私と同胞の人生史

かるがも～学生きょうだい児の会～

出原幹大



自己紹介

出原幹大

かるがも～学生きょうだい児の会～
社会人代表

- 1998年生まれ(24歳)
- 3人きょうだい(妹、弟)
- 筑波大学大学院修了(2023卒)
- 現在は民間シンクタンクにて勤務
- 「かるがも」には2021年に出会う。
その後、運営に加入し現在に至る。





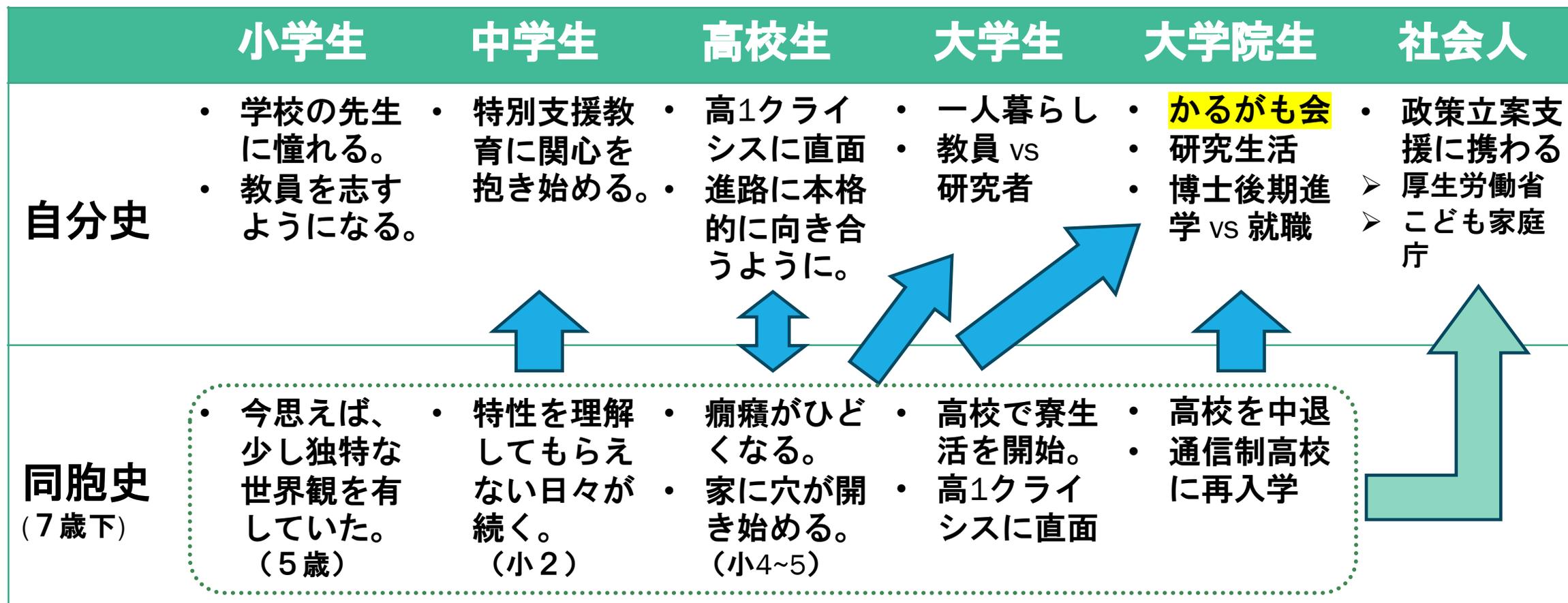
本日本話すること

- 01 自分史と同胞史の全体像
- 02. 自分史と同胞史 各論
- 03. 「きっかけ」となり続けた同胞の存在
- 04. 最後に

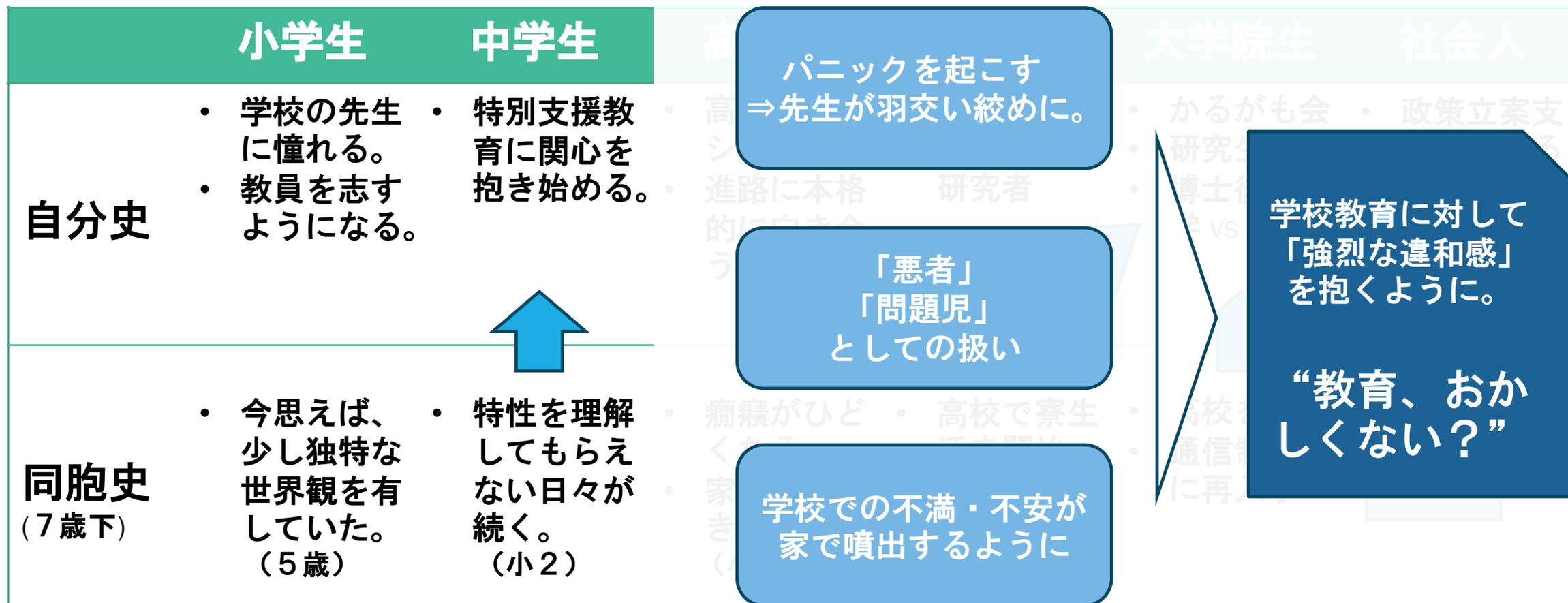
お話の前に…

- 今からお伝えするのは、あくまでも私個人(n=1)のお話です。
(皆が皆、同様の経験を積んでいるわけではありません)
- また、いわゆる「べき」論の語りでもありません。

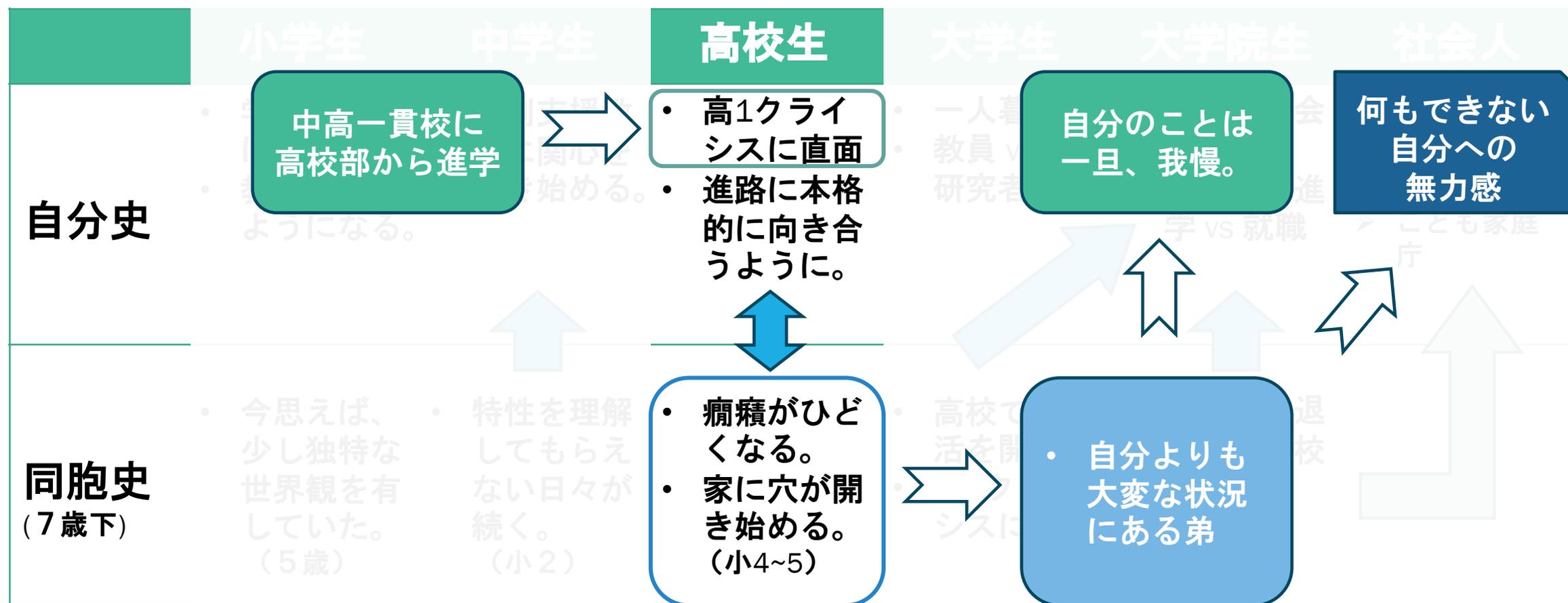
「自分史」と「同胞史」の全体像



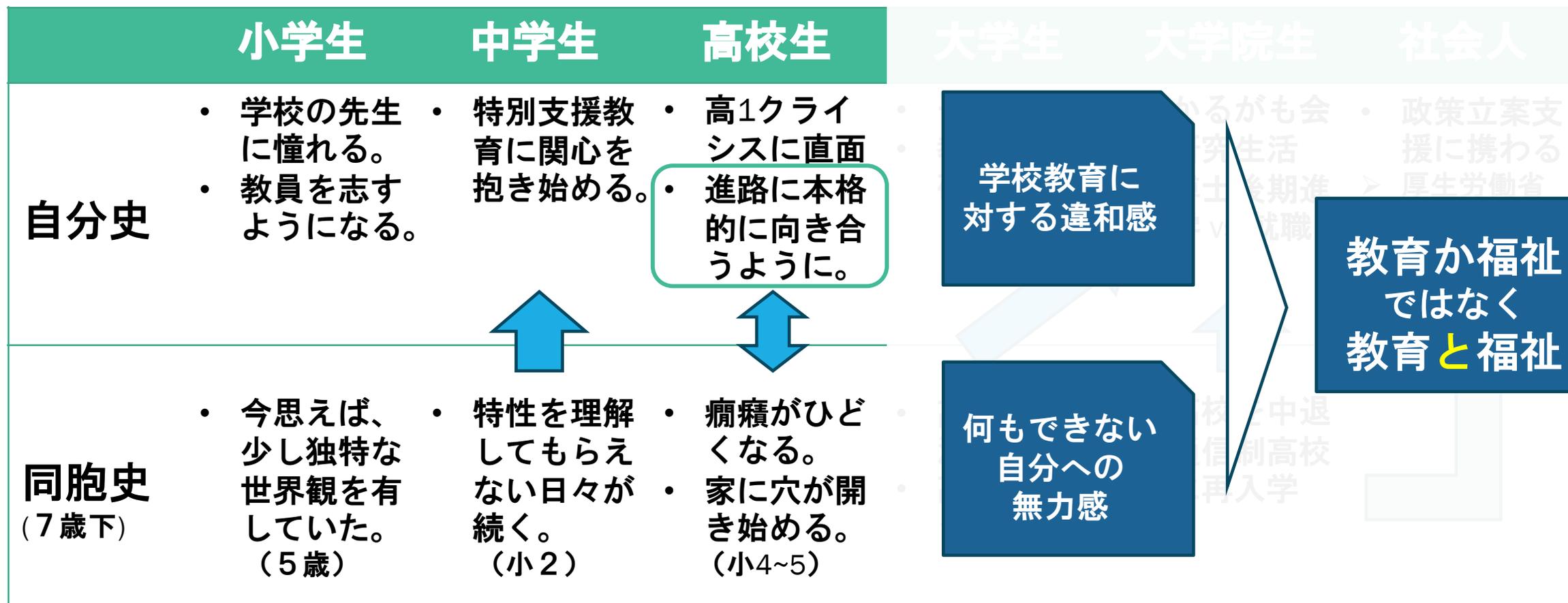
小学～中学生時代 —学校教育への疑念



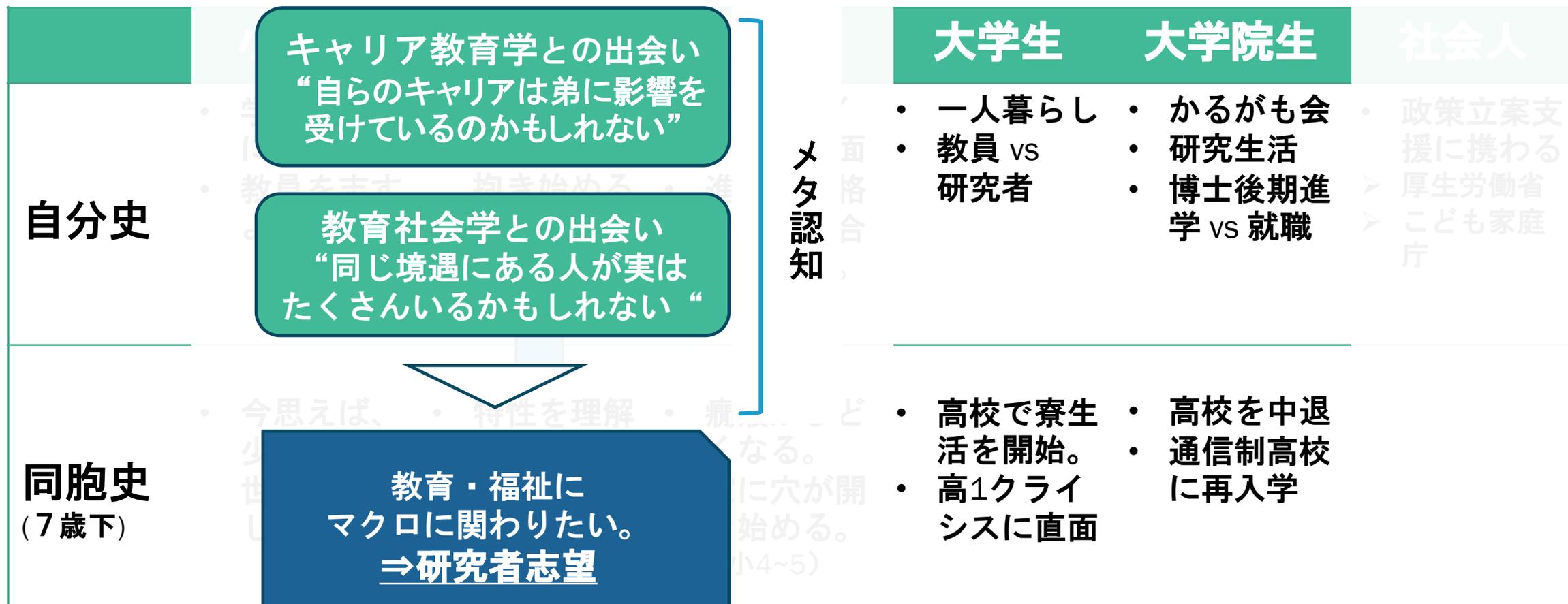
高校生時代 —きょうだいの苦悩との闘い



高校生時代 —きょうだいの苦悩との闘い



大学生・大学院生時代 —キャリアとの対峙



大学生・大学院生時代 —キャリアとの対峙

		高校生	大学生	大学院生	社会人
自分史	「居場所」の重要性を認識し始める。	<ul style="list-style-type: none"> 高1クライシスに直面 	<ul style="list-style-type: none"> 一人暮らし 教員 vs 研究者 	<ul style="list-style-type: none"> かるがも会 研究生生活 博士後期進学 vs 就職 	<ul style="list-style-type: none"> 政策立案支援に携わる 厚生労働省 こども家庭庁
	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; background-color: #ADD8E6;">きょうだいという共通言語</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; background-color: #ADD8E6;">かるがもとの出会い</div> </div>				
同胞史 (7歳下)	教育・福祉にマクロからかつ、当事者に向き合える仕事に就きたい。	<ul style="list-style-type: none"> 癩癢がひどくなる。 家に穴が開き始める。(小4~5) 	<ul style="list-style-type: none"> 高校で寮生活を開始。 高1クライシスに直面 	<ul style="list-style-type: none"> 高校を中退 通信制高校に再入学 	

社会人生活の始まり

自分史

民間シンクタンクで
今春から勤務開始。



同胞史
(7歳下)

かるがも会の活動は
継続して実施。

こどもの居場所づくりに関する調査研究

報告書

令和5年3月

内閣官房 こども家庭庁設立準備室

調査研究実施機関:みずほリサーチ&テクノロジーズ株式会社

社会人

- 政策立案支援に携わる
 - 厚生労働省
 - こども家庭庁

「きっかけ」となり続けた同胞の存在

■ たまに思う事…

- 私のキャリアは、弟に影響を受けているのではないか。
- 自分の人生を自分で選択できていない、ということなのか。

⇒影響は少なからず受けている。ただし、あくまでも「きっかけ」でしかない。

最後に…

■ 私は「キラキラきょうだい児」なのか？

- 大学に通う事も一人暮らしをすることも許された身。
- 私は「きょうだい児」を名乗っていいのか。

⇒「きょうだい児」はあくまでも属性の1つ。

障害や病気のある兄弟姉妹がいる人、という意味しか持ち得ない。

同胞の障害種別や程度等は多種多様。置かれている状況も十人十色。

「かるがも」では、置かれている状況で区別することなく、きょうだいと関わりたい。



ご清聴ありがとうございました！

連絡先：kyoudai.karugamo@gmail.com